



メロス通信 不定期便

6月18日Club Gyaross平和学習をご紹介します

私の戦争体験記 北朝鮮引きあげの記憶 林 洋武 さん

一夜にして起こった反転

6月のギャロスでは90歳を迎えた林洋武さんから今では大変貴重となった北朝鮮引きあげからの戦争体験を伺うことができました。

長野県出身の林家は軍人・地主として当時の朝鮮の地方都市で成功した有力な日本人一家でした。その四男の林さんは当時小学校4年生。事態が一変したのは1945年8月15日、昭和天皇からラジオで太平洋戦争の敗戦が告げられたあと。翌16日には朝鮮人の間に密かに広まっていた独立歌（メロディは「蛍の光」、歌詞は現在の韓国国歌と同じ）が大合唱され、日本国旗は墨で朝鮮の国旗に塗り替えられ、林家で信用されていた使用人が父母を平伏させて一家の私財を押収してしまいました。

まもなくソ連軍が市の駅に大挙して降り立ちます。

略奪、強姦、飢え、弱者は切り捨てられるしかない極限状況

9月上旬には350人の日本人は一畳に二人の広さしかない工場跡地の強制収容所に入れられます。女性はソ連兵からの強姦を恐れ、顔は炭で黒塗り、頭は丸坊主にして息をひそめます。赤ん坊の泣く声でソ連兵に気づかれ母子ともに奪われた命もありました。ソ連兵からのレイプが横行していました。

12月になると飢えや寒さで死者が続出します。配給は絞った豆かす、コウリャン、粟。松の皮をはぎ、ニセアカシヤの花を摘んで飢えをしのぐ日々。

ここで1年近くを過ごし、翌1946年7月には収容所から280キロ南の米軍占領地（38度線以南）まで徒歩で脱出する計画が立てられます。しかし栄養失調と幽閉生活から歩けなくなっているお年寄りと女性がいます。お年寄りには食事を与えず餓死させる姥捨て、歩けない女性には青酸カリが配られました。

8月30日、極度の緊張感のなか林さんたちは集団で逃げ出します。途中、大雨に打たれ力尽きて何人もが亡くなっていきました。林さんもマラリヤに感染し40度もある

発熱のなか死にものぐるいで歩き、国民学校の末富先生と医学生の牧さんがようやく手に入れた薬（キニーネ1個）で命を救われます。ソ連兵に見つからぬよう飢えと病に苦しめられる旅路でしたが100名近い日本人の集団を助けてくれる見知らぬ朝鮮人家族もありました。

残されたわずかな人権まで奪われた日々

1946年9月になり目的地に到着。ここからプサンまで貨物列車で移動することができましたが、その中で行なわれたのは15歳から50歳までの女性たちにへの聞き取りです。ソ連兵に強姦され妊娠した女性は日本到着時には強制的に堕胎させるためにです。

プサンから日本の福岡に向かう船の中ではコレラが蔓延し、博多湾で42日間船に閉じ込められたままでした。14人がコレラで命を落とし、丸見えの甲板で男女関係なく下半身をむき出しにして便を採取する検査が続けられました。



そして平和への道を歩む

林一家は数々の苦難、辱めを受けたのち名古屋駅にたどり着いたのは深夜。学生援護同盟の数人の学生に取り囲まれた林さんは、親、兄弟が未だに戻ってこない学生たちが献身的に引揚者を援護する姿に心うたれます。その後東京大学に進学したのちには、社会奉仕のためのセツルメント部に入部し、困窮する人々の暮らしの中に身を投じ社会福祉を求める活動を開始します。

林さんはこれらの体験を通し今に続く平和運動をつらぬかれてきました。よどみなく語られる2時間もの壮絶な体験は参加者に様々な思いをもたせました。

日本人の罪を受け止める

林さんは言います「ソ連兵は各地で略奪と強姦を繰り返したが、日本軍もそれにも増して酷いことをしてきた。そのなかで当時の中国共産党軍は兵士の強姦を厳しく罰しており、信頼を集めていた。当時の規律高い中国共産党と、その後の有様は同じ中国と思えないが。また宇部の長生炭鉱で働かせていた朝鮮人は徴用されてきたというが、それは徴兵と同じ強制的なものだった」と。

林さんに問う

勝ち負けで反転してしまう正義。歯止めがないと略奪・強姦・殺人を繰り返す人間。戦争はむごたらしく人間は残酷なのに林さんは平和を求めて活動し続けてきた。これから私たちは戦争を繰り返す人間をどう捉え、何をしていけばいいのでしょうか。

⇒答えは『戦争をくい止める世論』!!

テレビで映される戦争はあんなものではありません。いろんな情報を得て正しい事実を知ることの大切さ。兵士たちは寂しい思いをしました。「明日、命はない戦地」に駆り立てられる。戦地には「良い人」「悪い人」両方がいましたが、その両方が極端で戦争がそうさせていました。戦争の怖さ、それが兵士たちを極度に追い詰めていくのです。 人間をそうさせないこと、戦争をさせないこと、戦争を止める世論がいるのです。

林さんの語りから学んで

至るところでネットやテレビから戦争の映像が送られてきて戦争することが当たり前のようにになっている世界。すべての者から人間らしさを奪っていく戦争を止められるのは私たちひとり一人の力にかかっています。「戦争なくせ!」という声、「9条を守れ!」という声、それを世論にすることがどんなに大切なことか心に刻みました。「人間」という存在になかば諦めを感じていた私でしたが人間を悪に貶めないために努力しようと思うことができました。林洋武さん、ありがとうございました。

野田民医連会長より

山口民医連は、平和運動の継承者として、先人の声の記録に努めてきました。詩人の故・花田克己さんのお話なども録音しました。今日は、敗戦直後の生き証人の林さんのお話を直接聞き、記録に残すことができてホッとしています。参加者全員、お話はしっかり胸に刻みました。今後もお元気でこの様な活動を続けられていかれることを心から願っています。